

地盤調査規格・基準委員会

平成21年度第3回 議事録

日 時	平成21年 11月5日(月) 15:00~18:00			場 所	地盤工学会 会議室		
委員長	谷 和夫		幹事(岩)	長田 昌彦		幹事(土)	利藤 房男
委員	別木 孝	×	WG1委員	松島 潤	×	WG1委員	林 宏一
WG2委員	木村 英雄		WG2委員	水谷 崇亮		WG3委員	井尻 裕二
WG3委員	小松 満		WG4委員	平林 弘		WG5委員	小早川 博亮
WG5委員	山本 裕司	×	WG6委員	中村 洋丈		WG7委員	浅井 健一
WG7委員	藤崎 勝利		WG8委員	日比 義彦		WG8委員	藤根 拓
WG12委員	吉村 貢						

: 出席 : 代理出席 × : 欠席 : 未定

配布資料

委員会名	資料	資料の有無・番号
地盤調査規格・基準委員会	・ 前回議事録 (H21-8-3)	・ 資料21-3-1
ワーキング12 スウェーデン	・ 新規基準：貫入式土壌硬度試験方法 ・ 同上 : 針貫入試験方法	・ 資料21-3-2(1) ・ 資料21-3-2(2)
地盤調査規格・基準委員会	・ 地盤調査方法と解説 規格・基準の総括表と工程表	・ 資料21-3-3
同上	・ 平成22年度以降のメンバー表	・ 資料21-3-4
同上	・ JIS 3案 土と基礎公示文 ・ 用語の定義に関して(標記法委員会方針案)	・ 資料21-3-5(1) ・ 資料21-3-5(2)
同上	・ 平成22年度予算表	・ 資料21-3-6
基準部会	・ 平成21年度第3回議事録	・ 資料21-3-7
ワーキング	・ ワーキング議事録	・ 資料21-3-8(1) ・ 資料21-3-8(2)
会員からの質問	・ 質問内容と回答	・ 資料21-3-9

審議事項

(1) 前回議事録確認(資料21-3-1)

・ 特に意見なし。

(2) 新規基準審議(資料21-3-2(1)~(2))

・ 委員からの意見は以下の通り。ワーキングで再検討し、1/29の委員会でも再審議する。その際、解説の審議も併せて行う。

(仮称) 貫入式土壌硬度試験方法

- ・ 新JISフォーマットに修正。備考、参考 注記。
- ・ 日本語と英文のタイトルが整合しているか確認する。
- ・ 特許の縛りはあるのか。装置と試験法にかかっていたが、50年程度経っており、縛りを受けることはない。
- ・ 1.適用範囲 「自然斜面、および切り土斜面等」とあるが、「路頭」では使用できないか。表現を検討して欲しい。
- ・ 同上 備考1は、本文に入れないで良いか検討が必要。「主たる対象」の主たる、を抜いたほうが良いか検討が必要。
- ・ 3.定義 a) 山中式土壌硬度計は、貫入式土壌硬度計に修正。
- ・ 4.試験器具 a) 山中式土壌硬度計は、貫入式土壌硬度計に修正。
- ・ 同上 図-1 長さ、先端角、不都合が出ない範囲で記載する。

- ・同上 備考1 質量は640gとあるが、質量を規定する必要がある検討が必要。
- ・同上 備考2 遊動指標 浮動指標に統一する。
- ・同上 備考3 ステンレス(SUS304)に関して、「304でない駄目か」、「304以上としては駄目か」、「引用基準が必要になる」、「錆を生じないという表現では駄目か」の意見が出ており、表現の検討が必要。
- ・同上 備考3 「磨耗による丸み」は、表現の検討が必要。
- ・同上 備考5 78.4N{8.0kgf}の、8.0kgfは削除。「荷重に対して40mm縮小」は、「40±** mm」としたほうがよいか検討が必要。
- ・5.試験方法 5.5 「かけ離れた値を除く平均値」は、表現を検討が必要。シュミットハンマーの基準が参考になる。
- ・6.報告事項 d) 記号、単位があれば入れる。
- ・同上 測定面の観察結果が必要かどうか検討が必要。

(仮称)針貫入試験方法

- ・新JISフォーマットに修正。備考、参考 注記。
- ・1.適用範囲 「貫入抵抗」は、4.試験器具 備考3 「圧入荷重」に関連して、用語の統一を検討する。
- ・4.試験器具 1行「ポケットペネトロメータ」、2行「軟岩式ペネトロメータ」は不要。「図-1に示すような」等の表現に変更する。
- ・同上 図-1記載の用語と本文中の用語の統一を図る。
- ・同上 備考3 「圧入荷重」は、1.適用範囲 「貫入抵抗」に関連して、用語の統一を検討する。
- ・同上 備考5 2行 「ばねの縮みから荷重を読み取る」は、「適切な剛性のばねを用いる」等、表現の検討が必要。
- ・同上 図-2 図が分かりにくい。真横からの図にするなど、検討が必要。
- ・5.試験方法 5.2 貫入速度は規定しないでよいか検討が必要。
- ・6.結果の整理 6.2 一軸圧縮強度 軸圧縮強さ。
- ・同上 キャリブレーションの仕方が分かりにくいので、表現の検討が必要。
- ・同上 変数はイタリックに。
- ・同上 一般的な基準では、一軸の強度の求め方までは定めない。貫入勾配を求めるまでとするか検討が必要。
- ・同上 備考1 針貫入長1mm 針貫入長さ1mm。
- ・同上 図-3は、6.1に入れたほうがよいので、検討が必要。
- ・同上 図-3で折れ点が出るのは一般的か。初期線形で少しずつ離れる。
- ・同上 図-3は、何点くらい必要か。解説で述べたい。
- ・同上 図-3は、机上型だけでなく、携行型もあったほうがよいので検討が必要。

(3) 地盤調査の方法と解説 来年度の方針、メンバー(資料21-3-3~21-3-4)

審議の決定事項は以下のとおり。

- ・過去の「会員からの意見」を反映させたほうが良いので、過去数年分の意見を整理して各ワーキングに配賦する。
- ・今回の「地盤調査の方法と解説」の発行形態は、「本：全規格、基準、解説が入る」とする。
- ・基準のタイトルは、必要に応じて変更しても良い。
- ・**ISOと規格、基準整合の方針決定を、基準部会に申し入れる。** 委員長名で、11/10の基準部会に上申
- ・来年度から、第1,2編のワーキングはWG9、第12編のワーキングはWG10とする。
- ・第12編の地盤汚染調査は、第11編に移動させる。第11編は、それを踏まえタイトルを検討する。
- ・ISO/DIS22476-4,6,8は、第8編に移動。
- ・新規基準で、第8編に貫入式土壌硬度計と針貫入試験が入ったことより、**WG5の委員に吉村委員を加える。**
- ・第10編に、JGS3721-2005ポアホール・エクステンソメータによる岩盤内変位測定を追加する。
- ・JGS 3421 2005 岩盤の点載荷試験方法は、室内試験法の委員会との調整の結果、地盤調査の方法と解説に入れることになった。
- ・**次回の委員会までに、各WGで、以下の事項を検討し、報告する。**
 - 規格・基準の漏れがないかの確認
 - 地盤調査の方法と解説の各担当編の目次の作成
 - 各担当編のおおよそのページ数
 - 現段階でのメンバー表(本日の議論を受けて、増員があれば検討願います)

報告事項

- (1) JIS 3案 土と基礎への公示文(資料21-3-5(1)～(2))
 - ・ 表記法委員会からいただいている用語の定義の修正案は、地盤工学会誌公示後、会員からの意見と併せて検討する。
- (2) 平成22年度予算(資料21-3-6)
 - ・ 特に意見なし
- (3) 基準部会報告(資料21-3-7)
 - ・ 特に意見なし
- (4) ワーキング報告(資料21-3-8(1)～(2))
 - ・ 特に意見なし
- (5) 会員からの質問と回答(資料21-3-9)
 - ・ 特に意見なし